

授業の実際

伝えなかった道徳的価値観

小学部4年生は、1/2成人式の学年です。自分の成長に興味関心をもったり、育ててくれた家族に感謝をする気持ち(感謝)に気づいたり、これからやってみたいことに思いをはせたりと、子どもたちなりに成長していくことの素晴らしさ(生命の尊さ)を感じてほしいと考え、計画した。

本校独自の内容項目表との関連

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階	高等部1段階	高等部2段階
B 主として人との関わりに関すること							B 主
親切、思いやり	身近な人との関わりを増やすこと。	身近な人との関わりを増やし、教師と一緒に親切な行為を経験すること。	身近にいる人に自分から親切な行為をすること。	相手の気持ちを考え、進んで親切な行為をすること。	相手の立場に立って考え、親切な行為をすること。	思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝すること。	思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それに答えること。
(情報モラル)				相手の気持ちを考えた言い方でSNSなどでやりとりをすること。	相手の立場を考慮して、SNSなどでやりとりをすること。		
感謝	家族など日頃世話になっている人々に気付くこと。	家族など日頃お世話になっている人々にありがとうと伝えること。	家族や日常生活を支えてくれる人々にありがとうと伝えること。	家族や日常生活を支えてくれる人々に感謝の気持ちをもって接すること。	日々の生活が家族や多くの人々の支え合いや助け合いて成り立っていることを理解し、感謝すること。	相手の立場を考慮しながら思いやりの心をもってSNSなどでやりとりをすること。	相手の立場だけでなく、周りの人々の支えや気持ちも考慮してSNSなどでやりとりをすること。
よりよい生活、集団生活の充実	気持ちのよい挨拶や話の聞き方、食事の作法などについて学ぶこと。	気持ちのよい挨拶や言葉遣い、動作などについて学ぶこと。	誰に対しても気持ちのよい挨拶や言葉遣い、動作などについて学ぶこと。	時と場をわきまえた挨拶や言葉遣い、動作などを心掛けて行うこと。	相手の立場や時と場をわきまえた挨拶や言葉遣い、動作などを心掛けて行うこと。	挨拶の大切さを理解し、時と場に応じた適切な行動をとること。	挨拶の意義を理解し、時と場に応じた適切な行動や態度を身に付けること。
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること							D 主として生命や自然、崇高
生命の尊さ	生きていることを感じる。	自分の命を大切にすること。	自分の命や生き物の命を大切にすること。	生きていくことのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	生命が繋がっていくことを理解し、生命を尊重すること。	多くの人々の支え合いの中で生命が繋がっていくことを理解し、生命を尊重すること。	多くの人々の支え合いの中で生命が繋がっていくことを理解し、生命を尊重すること。感謝の気持ちを持って、生命を尊重すること。
自然愛護	自然や動植物と触れ合い、親しむこと。	身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。	自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。	自然のすばらしさや不思議さを知り、自然や動植物、自然環境を大切にすること。	自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。	自然の偉大さと驚異を理解し、自然環境を大切にすること。	自然の偉大さと驚異を理解し、進んで自然環境の愛護に努めること。

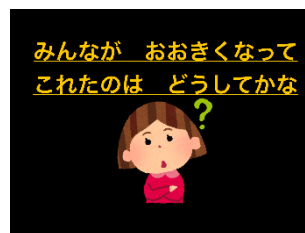
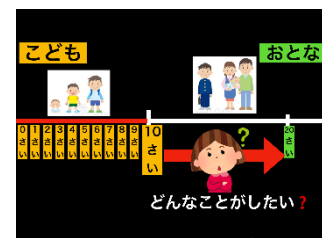
単元計画

知的障害のある児童生徒は、1回の学習で道徳的価値をしみこませていくことがなかなか難しいところがあります。そこで、単元を組んで取り組んだ例です。全4時間計画で、略案は3時間目のものです。

単元名	おおきくなるっていうことは	
単元のキーワード	「おおきくなるっていうことは」「こども」「おとな」 「おおきくなる」=1つずつ年をとっていくこと、大人に近付いていくこと	
時間	学習内容	学習活動
1	自分年表づくり～生まれてから今日まで～	友達だけでなく、客観的に自分の成長を見て関心をもつことができるように自分や友達の小さい頃の写真を見合い、自分年表に貼っていく。

2	自分年表づくり～小さいときのぼく・わたし～	事前に保護者の方から話を聞き、それぞれの小さい頃のエピソードを紹介することで、小さい頃の自分や友達のことを知る。自分年表に記入する。
3	自分年表づくり～大きくなったらしたいこと～	自分年表の、10歳から先の空白のこれからしたいことを考える。 今の自分が、これからしてみたいこと、なりたいものを考え、自分年表に記入する。
4	家族にありがとう～感謝の手紙を書く～	自分たちが、ここまで元気に大きくなってこれたのはなぜかを考え、家族に手紙を書く。

これまでに母の日などをテーマに、家族への感謝については既習しているため、つながりやすい。



実態差のあるクラスなので、自分年表への記入、感謝の手紙は、手本の準備、なぞり、文字・写真貼りなど、実態に応じて手立てを違って作成しました。

食べてみたいもの、行ってみたいところ、乗ってみたいものなど、大人になったらなりたいものなど具体的に写真などを準備し、選択して考えるようにしました。

授業をしてみても

1/2成人式を題材に、自分自身のことについて客観的に見る機会を意図的に設定することで、自分についての新たな発見や気づきのきっかけとなる学習になるのではないかと考え、取り組みました。「これは誰かな?」と写真を示すことで興味を示し、目を向けたり、「(これは)〇〇くん?」と尋ねたりする姿が見られました。一人一人が自分の成長過程の写真を順に貼り、自分の年表に記していくことで、まだ写真のないところ＝「おとな」、これから先であるということが分かりやすくなり、将来についても考えやすくなっていったように思います。「今」の自分を中心に「過去」「未来」の自分について児童なりに考え、そこに付随する家族の存在についても自然な学習の流れで気付くことができたように思います。

小学部の児童であっても、実態に応じた、自分で考えることのできる活動を設定することで、学習活動の中で道徳性を養っていく学習ができるのではないかと感じました。